

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	日本史	授業コード	K005251
担当教員名	若杉 昌昭		
配当学年		開講期	後期
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	授業には必ず出席すること。教育問題に対して常に関心を持ち、情報の収集を行うこと。子どもが大好きなこと。		
受講心得	授業で指示したキーワードの事前学習を必ず行うこと。積極的に発言すること		
教科書	「もういちど読む山川日本史」著者名：五味文彦、鳥会靖、プリントを使用		
参考文献及び指定図書			
関連科目			

授業の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校・高等学校で学んだ日本史を土台に、さらに考察を深める。</li> <li>2. 歴史の知識、歴史的な見方・考え方を培う</li> <li>3. 歴史史料の解釈、扱い方を学ぶ。</li> <li>4. 教員の免許状取得に対応できる知識の習得</li> </ol>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原始、古代、中世、近世、近代、現代等に時代区分し、それぞれキーワードを設定する。</li> <li>2. それぞれの時代の概観を復習し、キーワードについて学習する。</li> <li>3. それぞれのキーワードを基にその時代を考察する。</li> <li>4. キーワードは、可能なものは高等学校教科書に扱われている大分県関係の語句を使用する</li> <li>5. 学生にはキーワードの事前学習を義務づける。</li> </ol>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション</b> 授業の進め方、日本史の目的、面白さ、盲点等について説明	次回のキーワード「岩宿」についての事前学習を指示
<b>第2週：原始社会 キーワード「岩宿」</b> 通説にとらわれない思考、実行力が歴史を塗り替えたことを学ぶ。	次回のキーワード「聖徳太子」の事前学習を指示
<b>第3週：古代社会 キーワード「聖徳太子」</b> 氏姓制度の枠を超えた発想が政権の基盤を強固にしたことを学ぶ。	次回のキーワード「和氣清麻呂」の事前学習を指示
<b>第4週：古代社会 キーワード「和氣清麻呂」</b> 奈良時代、和氣清麻呂の起用の背景と大分県(宇佐宮)との関わりを学ぶ。	次回のキーワード「富貴寺」の事前学習を指示
<b>第5週：古代社会 キーワード「富貴寺」</b> 平安時代、地方に中央文化の花が開いた歴史的背景を学ぶ	次回のキーワード「豊後国司庁宣」の事前学習を指示
<b>第6週：中世社会 キーワード「豊後国司庁宣」</b> 荘園の成立、発達、構造等について学ぶ	次回のキーワード「大友宗麟」の事前学習を指示
<b>第7週：中性社会 キーワード「大友宗麟」</b> 守護から、守護大名、戦国大名への成長、そして没落、大友氏の盛衰から歴史の流れを学ぶ	次回のキーワード「リーフデ号」の事前学習を指示

<b>第8週：近世社会 キーワード「リーフデ号」</b> 新たな新教国の出現、西洋文化・技術が戦国の統一を早め、その後の日本の状況に大きな影響を与えたことを学ぶ		次回のキーワード「生類憐れみの令」の事前学習を指示
<b>第9週：近世社会 キーワード「生類憐れみの令」</b> 武断政治から文治政治への転換、それを象徴する生類憐れみの令、その位置づけ等を学ぶ		次回のキーワード「福沢諭吉」の事前学習を指示
<b>第10週：近代社会 キーワード「福沢諭吉」</b> 啓蒙思想家福沢諭吉の人となりを知り、日本の近代化に果たした業績を学ぶ		次回のキーワード「55年体制」の事前学習を指示
<b>第11週：現代社会 キーワード「55年体制」</b> 政党政治の始まりから昭和の55年体制、その崩壊から現在までの動きを学ぶ。		次回のキーワード「吉四六と吉吾」の事前学習を指示
<b>第12週：歴史と昔話 キーワード「吉四六と吉吾」</b> 政治・経済・地域・民俗などにより構成や展開が異なることを学び、時代や社会を探る。		次回のキーワード「山弥長者」の事前学習を指示
<b>第13週：歴史と伝説 キーワード「山弥長者」</b> 伝説に潜む歴史性、人情等を読み取り、時代背景を探る。		次回のキーワード「日の丸・君が代」の事前学習を指示
<b>第14週：国旗・国歌論 キーワード「日の丸・君が代」</b> 日本の国旗・国歌の成立、偏見にとらわれない解釈、変遷等を学ぶ 各国の国歌との比較により君が代を考察する。		次回のキーワード「矢野儼一」の事前学習を指示
<b>第15週：歴史の鉄則 キーワード「大分県技手 矢野儼一」</b> 矢野儼一について記述する3冊の出版物から、孫引きの危険性を学ぶ。		
<b>第16週：期末試験</b>		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	授業での発言、発表等前向きな取り組みができる。
<b>【知識・理解】</b>	通史(中学校・高等学校程度)を完全に理解している。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	歴史や時代背景等を概説できる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	歴史ドラマ等の正しい時代考証ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回、次回の授業のキーワードの事前学習を指示し、レポートとして提出すること。提出をもって出席に代えるので、必ず提出すること。 Aレベル 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 Bレベル 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 Cレベル 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部満たしている。
発表・その他(無形成果)	授業中、適宜、学生に発問し、優れた解答をした者は、記録して加点することがある。